



## 古希雑感三題

Three Issues of 70 Years Life

小 浜 一 好  
Kazuyoshi Kohama

EICA 名誉会員

月島 JFE アクアソリューション(株)

古希エンジニアから中堅若手エンジニアへの雑話である。

### 1. 母集団

今年、古希を迎えた。中国唐の時代の詩人杜甫は曲江という詩の中で「人生七十古来稀なり」と詠んだのが古希の語源といわれる。詩作全体を見てみると、杜甫らしく毎日酒に酔い借金を重ねて衣服を質に入れるまで生活が困窮している様や70年は稀にしか生きられない短い人生の中で、花を飛び交う蝶や水面に舞うトンボなど見ながら共に楽しもうとする、人生の感慨と無常観を詠んでいる。

あまり人生を振り返る習慣はないが、考えてみるとよくもダラダラと長い間過ごしてきたものだと思う。これは卑下でも何でもなく実感である。私を含めてほとんどの人は世の中にほとんど足跡を残さず、淡々と種を繋いでいくのだろう。

ある推計によると、これまで地球上に存在した人類は約1,080億人だということである。20~30万年間に及ぶホモサピエンスの総計なのだが、とりあえず今生きている我々はその人数の中にカウントされている。長い歴史の中には、人類の進歩を強力に進めた人もわずかだがいて、全体として人類社会はここまでになってきた。その他大多数もこの世に生を受けたこと自体は奇跡的なことなのであろうが、種を繋ぐことや突出した人の邪魔をしない、あるいは少し手助けをすることで役割を果たしてきた。

効率やコスパを求める現在の風潮を皮肉って、人生で最高のコスパをあげるには死ぬことだ、と今人気のイェール大の成田悠輔先生はおっしゃるが、それでは元も子もないので、この先何かいいことがあるはず、あるいは、少しでも世の中に貢献したい、と思いがら生きている。ただ、実際にはいいことはたまに起こるだけ、あとは悪いことや平々凡々とした生活がほとんどである。というような人生の諦観を時々感じている今日この頃である。

しかし考えてみると、わずかな一握りの人を生み出すのはやはり健全な母集団が必要なのである。今人気

絶大な大谷翔平も長い野球の歴史の中で数多のプレーヤーがいたからこそ傑出したスーパースターであり、ボクシングの井上尚弥も同様である。将棋の藤井聡太も江戸時代からの棋士の歴史の中で培われた土壌から、予想をはるかに超えるAIの進展をツールとして高みに上り詰めたのである。それぞれ突出した存在ではあるが、背景はしっかりとある。我々ほどの分野においてもしっかりと母集団を形成し、少しでも発展させようと努力し、ごく稀なケースで天分とチャンスがあれば、突出した人になることを厭わない意識を持つことが必要であろう。

杜甫の詩の世界のように毎日酒に酔い自然を愛でながら過ごすのはうらやましいとは思いますが、今生きている人がそんなことだけ望んでも仕方ない。もう少し無理やり気分を上げて、この世に受けた生をポジティブに捉え、母集団の一員としてほんのわずかでも意味のあることに自分自身の残りの人生を結び付けたいと藻掻く日々である。

### 2. ボケ防止

最近、漢字検定試験を受けた。レベルは2級、高卒程度に値する問題が出る。動機は同年輩の知り合いから受験したのを聞いたのとボケ防止（言葉が悪ければ脳トレ）のためである。パシフィコ横浜の広い試験会場にはそれこそ老若男女が集い、真剣な様子。1時間の試験だが集中し久しぶりの緊張感を味わった。約8割正解で合格ということで受験後の甘い自己採点ではまあまあかと思ったのだが、結果は見事落ちた。

実は昨年、数学検定も受けた。これも2級、数ⅡB程度である。こちらの結果はめでたく合格、立派な免状をもらった。

暇な年寄りと思われるかもしれないが、頭を使うのはいいことなのは間違いない。50の手習いと昔の人は言ったが、まさに70の手習い、古希の手習いを地で行っている。勉強は生来嫌いであるが、好奇心は旺盛な方であると自認している。しかし残念ながらコツコツやるのは好みではない生来の怠け者であり、そういう意味では繰り返しの書き取り練習が必要な漢字の

方は得意ではなく、ひらめきで勝負できる数学の方が相性はいい、と自分を納得させている。

この世は資格や検定試験に溢れている。自己啓発の目標としては具体的で達成感もあり、実利もある。現役バリバリの技術者、研究者は是非トライしてほしいと思っている。何を目標とするか、どんな試験を受けるのかは、取得目的や市場価値、時間とコスト、自己の成長などを考慮して選定すると励みになるであろう。ただし、古希にとっては、ただ自分の興味とボケ防止を考えれば、それで十分なので、悪しからず。

### 3. 健康、体力

雨の日を除くほとんど毎朝、散歩とラジオ体操を約1時間かけてやっている。年を取って朝早く起きるのも苦ではなくなった。丘の上の公園まで出かけ、100名を超える近隣の人たちと雑談やストレッチをしながら、6時30分に始まるラジオ体操の開始を待つ。不思議なことにそれぞれ立ち位置が決まっていて、その場所ごと自然発生的に小さなコミュニティが出来ている。ラジオ体操第一第二を丁寧にこなすと、寒い日でも汗が出てくる。日本は素晴らしい国民体操を生み出

したものだといつも思っている。中国の朝の太極拳のようなものか。参加者のほとんどがジジババであるが、顔なじみを三四日、見かけないと周りは心配する。まさに生存確認作業である。ますます、シニアが元気になっていく象徴でもあろう。

老後に必要なのは「キョウイク」と「キョウヨウ」であるという。勿論、いまさら「教育」と「教養」ではなく、「今日行くところがある」と「今日用がある」のだそうだ。その前提となるのはやはり健康、体力である。若い時分に体を鍛えていた人は基礎体力が備わっていてシニアになっても頑健な人が多い気がする。♪若者よ、体を鍛えておけ、美しい心がたくましい体に辛くも助けられる時がいつかは来る〜♪と昔の歌にあるが(多分ほとんど知らないであろう)、中堅若手も頑張してほしい、研究者技術者は特に体を動かす時間は必要であると思う。早起き、散歩、ラジオ体操はお金もかからずお勧めであるが、少し地味ではある。どんなスポーツでもトレーニングジムでもダンスでもアウトドアでも何でもいい。自分に合ったものを見つけ、元気な古希に負けないようにしてほしい。